

平成23年12月相模原市教育委員会定例会

○日 時 平成23年12月8日（木曜日）午後2時30分から午後3時56分まで

○場 所 相模原市役所 教育委員会室

○日 程

1. 開 会

2. 会議録署名委員の決定

3. 議 事

日程第 1（議案第56号） 相模原市社会教育委員の人事について（生涯学習部）

4. 閉 会

○出席委員（5名）

委 員 長 溝 口 碩 矩

委員長職務代理者 小 林 政 美

教 育 長 岡 本 実

委 員 齋 藤 文

委 員 大 山 宣 秀

○説明のために出席した者

教 育 局 長 村 上 博 由 教育環境部長 浅 見 行 彦

生涯学習部長 白 井 誠 一 教育局参事 林 孝
兼教育総務室長

教育総務室 細 谷 正 行 学校教育課長 土 肥 正 高
担当課長

学校教育課 西 山 俊 彦 生涯学習部参事 大 用 靖
担当課長 兼生涯学習課長

生涯学習課 鈴 木 雅 文
担当課長

○事務局職員出席者

教育総務室主査 井 上 大 輔 教育総務室主事 越 田 進之介

□開 会

◎溝口委員長 ただいまから相模原市教育委員会 1 2 月定例会を開会いたします。

本日の出席委員は 5 名で定足数に達しております。

本日の会議録署名委員に、私、溝口と斎藤委員を指名いたします。

はじめにお諮りいたします。本日の会議を公開の会議とすることで、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎溝口委員長 では、本日の会議は公開といたします。

傍聴人の方は、お入りいただいて結構です。

(傍聴人入場)

□相模原市社会教育委員の人事について

◎溝口委員長 それでは、議事日程に基づき、これより日程に入ります。

日程 1、議案第 5 6 号、相模原市社会教育委員の人事についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

○白井生涯学習部長 議案第 5 6 号、相模原市社会教育委員の人事について、ご説明申し上げます。

提案の理由でございますが、議案の裏面にございますように、相模原市社会教育委員の任期満了に伴い、社会教育法第 1 5 条第 2 項の規定により、後任の委員を委嘱するため、提案するものでございます。

新たな委員予定者について紹介する前に、社会教育委員について、簡単にご説明させていただきます。

社会教育委員は、社会教育法第 1 5 条において、「学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する」とされております。

また、主な職務といたしましては、同法第 1 7 条で、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること、必要な研究調査を行うことなどで、年 6 回ほどの定例会を開催し、協議を行っております。任期は 2 年、定数

は15名でございます。

次に、このたびの委員の選考に当たり、配慮いたしました点についてでございますが、先般の社会教育委員会議からの答申の中で示されたように、今後の社会教育施設には、民間団体やNPO法人、大学等との協働による取組がより求められていますことから、社会教育委員につきましても、より幅広い人材が必要と考え、一部構成の変更を行うことといたしました。

変更いたします点につきましては、お手元の参考資料「社会教育委員新旧対照表」をご覧いただきたいと存じます。

下段に記載してあります学識経験者には、新たに、青年層で、地域の特性を生かしたまちづくりを展開している「社団法人相模原青年会議所」、大学と地域の連携・協働による地域社会づくりを進めている「公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム」、また、「市地域婦人団体連絡協議会」「女性学習グループ連絡協議会」の両団体が加盟している「NPO法人男女共同参画さがみはら」、さらに、本市の公民館活動等に精通した知識と実績を持つ「社会教育有識者」をお願いすることといたしました。

それに伴いまして、定数の関係もあり、お手元の資料の上段3行目の学校教育の関係者「県立高等学校相模原地区校長会」、6行目の社会教育の関係者「市地域婦人団体連絡協議会」、9行目の「女性学習グループ連絡協議会」からは選出は行わず、また、下から2行目、3行目の「津久井地域」からの選出は2名から1名に変更いたしました。

それでは、委員予定者について、紹介させていただきます。

議案第56号及び、ただいまご覧いただきました参考資料をご参照いただきたいと存じます。

15名のうち、8名が新任、7名が再任でございます。

はじめに、境妙子氏につきましては、市立光が丘小学校校長で、相模原市公立小学校校長会からご推薦をいただいた方で、新任でございます。

和田再生氏につきましては、市立上鶴間中学校校長で、相模原市立中学校長会からご推薦をいただいた方で、新任でございます。

一戸徳雄氏につきましては、相模原市文化協会からご推薦をいただいた方で、再任でございます。

杉崎桂子氏につきましては、相模原市体育協会からご推薦をいただいた方で、再任でございます。

鈴木究氏につきましては、相模原市立小中学校PTA連絡協議会からご推薦をいただいた方で、新任でございます。

青木久氏につきましては、相模原市公民館連絡協議会からご推薦をいただいた方で、再任でございます。

菅野泰男氏につきましては、相模原市青少年関係団体連絡会からご推薦をいただいた方で、再任でございます。

古田政子氏につきましては、子育て親育ち応援団With. cfcからご推薦をいただいた方で、再任でございます。

榎戸恵子氏につきましては、社団法人相模原青年会議所の役員で、新任でございます。

古矢鉄矢氏につきましては、公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムの理事で、新任でございます。

梅澤カツ子氏につきましては、NPO法人男女共同参画さがみはらの事務局長でございます。新任でございます。

福田須美子氏につきましては、相模女子大学教授で、再任でございます。

齊藤ゆか氏につきましては、聖徳大学准教授で、新任でございます。

玉井清一氏につきましては、一般社団法人かながわ青少年協会理事会兼県立藤野芸術の家館長で、新任でございます。

吉川恵美氏につきましては、前期までは相模原市女性学習グループ連絡協議会から選出されておりましたが、学識経験者として選出させていただき、再任でございます。

なお、任期につきましては、本日付で委嘱申し上げたいと考えており、本日、平成23年12月8日から平成25年12月7日までの予定でございます。

以上で、議案第56号、相模原市社会教育委員の人事についての説明を終わらせていただきます。

よろしくご決定くださいますよう、お願いいたします。

◎溝口委員長 ただいま説明が終わりました。これより質疑、ご意見等ございましたらお願いいたします。

学識経験者が4名から7名に増えているということで、先ほど、部長から説明がございましたけれども、そのかわり減ったところもあるわけですが、この理由は先ほど述べたこと以外にはないですか。

○大用生涯学習課長 先ほど、部長からお話があったとおり、幅広い層からのいろいろな意

見をお聞きしたいということで、今回、編成替えをいたしました、その中で、もう1つ配慮をさせていただきましたのが、やはり大学との連携をこれからしっかり模索していかなければいけないということで、今回、ここにごぞいますとお、相模原・町田大学地域コンソーシアムの方からぜひ委員にということで考えたものでございます。

それと、相模原青年会議所でございますが、青年会議所というのは20歳から40歳までのいわゆる若い青年と言われる方たちがまちづくりについていろいろ活動していこう、あるいは考えていこうという団体ですので、若い方の意見というのもこういう委員会の中に入れることは非常に大事だろうという視点の中で、今回、青年会議所も構成の中に入れてさせていただいたということでございます。

◎溝口委員長 関連して、吉川恵美さんという方が選出区分の変更で再任されている理由と、県立高等学校相模原地区校長会から出ていたのがカットされていますけれども、この辺もちょっと説明していただきたいのですが。

○大用生涯学習課長 吉川さんは、先ほど申し上げたように、女性学習グループ連絡協議会の代表として前期の委員でございました。婦人団体連絡協議会、それから女性学習グループ連絡協議会、両方とも、下のところにごぞいます男女共同参画さがみはらの構成団体ということで、主に女性の男女同権を果たしていくための組織として活動しているものでございます。そこから代表として今回選ばれた方が梅澤さんなのですが、やはり社会教育に今まで携わっていて、特に公民館を中心に活動してきた女性の有識者は、吉川さんが経験と知識が非常にございますので、これからは団体の代表というよりは学識経験者としてぜひ加わっていただきたいということで加えさせていただいたものでございます。

あと、高等学校の校長会が、今回、選出から外れましたが、これにつきましても、高校との連携も非常に大事だというふうに考えております。前任の塩谷先生ともいろいろお話をさせていただいた中で、委員として加わるのではなく、それ以外のところでも、高校と私ども教育委員会とが連携することはこれから考えていかななくてはいけないし、ぜひやっていきたいというご意見もいただいておりますので、委員としては一旦お休みをさせていただきますが、しっかりと連携を図っていきたくてございます。

◎小林委員 先ほどのご説明で、選出団体の構成に工夫がなされていると。私も非常にバランスのよさを感じております。特に社団法人の青年会議所、この参画はヒットかなという感じがいたしております。

その中で、選出団体についてちょっと伺いたいのですが、ちょうど真ん中辺にある子育て

て親育ち応援団With. cfc、この団体の活動内容を教えていただけますでしょうか。

○大用生涯学習課長 粹といたしましては、家庭教育向上に資する活動を行うものということで、この団体の名前にも書いてございますとおり、子育てを応援していこうというのが、この会の大きな目的でございます。

構成といたしましては、PTA、あるいは公民館の女性学級でいろいろ活動してこられた方が、子育ての経験を生かして、あるいは保育の資格を持っている方もいらっしゃるもので、そういう方たちが地域と家庭と子どもをつなげる子育て応援団として、いろいろな活動をしていこうとするものでございます。

具体的には、例えば子育て広場というものを場所を借りて開催したり、あるいは子育てのための情報ミニコミ誌を発行したり、あるいは相模原市協働事業提案制度によりまして、平成23年2月から、伊勢丹相模原店へ買い物に来られた方に合わせて、親子で自由に訪れて子どもの将来や情報交換ができる「子育て広場たん」というのをこの団体が担ってオープンし、運用しているという実績もございます。子育てについて、家庭教育の一番中心的な部分となります活動をしっかりされているということで、今回、推薦された方を委員として考えてございます。

◎大山委員 私は教育委員になりましてまだ日が浅いもので、社会教育委員について理解に乏しいのですが、先ほど、学校教育の関係者の中で県立高校の先生が粹から外れたということなのですが、市の教育委員会と県との連携などを考えると、県の高等学校の方が委員になられて、それから小中学校というのは校長会は別でしょうけれども、市内の小中学校ですから、むしろ、それを一本化して一委員とした方が、幅広い意見をもらうのであれば、そういったことの方がよろしいのではないかと私はちょっと思いました。

○大用生涯学習課長 ご意見、大変ありがとうございます。先ほども申し上げましたとおり、確かに委員としては、今回、一旦お休みということになりますが、そのときにも塩谷前委員とお話をさせていただく機会がございました。そのときに、特に高校と実際に一緒に連携してやるということになると、社会教育委員として意見を言うのも非常に大事な場なのですけれども、区制がしかれまして、より区を単位とした地域と、それからその中にある高校とのいろいろなコラボをした授業をぜひやっていきたいというふうに塩谷委員はおっしゃってございました。そのときに、多分活動の場となるのが公民館だったり、あるいは地域のいろいろな教育に携わる団体だったりということで、非常に可能性のある活動がこれからできるのではないかとこのふうにもおっしゃっていただきましたので、今回は確かに

委員からは外れますが、ぜひ具体的なそういう活動をこれから進めていきたいと思っております。

◎溝口委員長 あと、社会教育委員の仕事についてですか。

○大用生涯学習課長 先ほど、私どもの説明のときにも社会教育委員の職務に触れましたが、もう少し詳しく申し上げますと、社会教育に関しまして、教育長を経て教育委員会に助言するために、先ほど申し上げた社会教育に関するいろいろな諸計画を立案する仕事がまず1つございます。

2つ目といたしまして、教育委員会の諮問に応じて意見を述べるということで、前回の定例会のときに、教育委員会の諮問に対して社会教育委員から答申書を出させていただいたのがこれに該当いたします。

あと、必要な研究調査を行うということで、協議をするためにいろいろなデータだったり、あるいは調査だったりというのをこの中で行うということも1つの職務としてございます。

それと、もう1つ、大きな仕事といたしまして、教育委員会の会議に出席いたしまして、社会教育に関して意見を述べるということも社会教育委員の大きな仕事でございます。

主にこのような職務になっているのが社会教育委員でございます。

◎斎藤委員 では、今のに関連して、先ほど、大山委員も伺ったようですけれども、県の教育委員会との連携というのはどんな形で行われているのでしょうか。

○大用生涯学習課長 社会教育委員だけではなく、社会教育、生涯学習を担うものとして、県との連携というのは、具体的に同じ活動の場ではフィルターを持ってございませぬ。ただ、いろいろな情報をやりとりしたり、あるいは場合によってはいろいろなアドバイスをいただいたり、あるいはこちらから情報を提供したりということはございますが、具体的な活動として、今、一緒にやっていることはございませぬ。

○白井生涯学習部長 社会教育の分野に限ってということですね。

○大用生涯学習課長 はい、社会教育の分野に限ってのお話でございます。

◎斎藤委員 そうしますと、先ほどの大山先生のお話ではないのですけれども、せっかく唯一残っている情報交換のパイプをなくしてしまうのはちょっと残念かなと思います。今後、その辺のところもぜひ積極的に考えていただければと思います。

◎溝口委員長 ほかに質疑、ご意見等ございませぬでしょうか。

(「なし」の声あり)

◎溝口委員長 ありませんので、これより採決を行います。

議案第56号、相模原市社会教育委員の人事についてを原案どおり決するに、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎溝口委員長 ご異議ございませんので、議案第56号は可決されました。

以上で、本日の議事は終了いたしました。

次に、委員の皆さんから活動報告をお願いしたいと思います。

最初に、大山委員の方から、相模台小学校の研究発表について、お願いいたします。

◎大山委員 お手元の資料をご覧ください。

私は、平成23年11月4日、金曜日、相模台小学校で行われました研究発表会に行つてまいりました。研究主題としては、「自ら学ぶ子の育成 ―国際教育を通し、コミュニケーション力を育てる―」ということでした。

相模台小学校は、英語教育ということに関しては、平成8年4月から既に文部科学省の研究開発学校として、この事業をスタートさせているということでございます。背景としては、近隣に米軍の住宅がありまして、昔から学校と交流があるということと、それから、この小学校におきましては外国籍の子女の方が通つていらっしゃるという背景があり、場所的な特異性からこういった研究に発展したというふうに考えられます。

一方で、この英語教育ということに関しましては、私も事情に関してはよく存じ上げなかったのですが、小学校5・6年生の外国語活動の必修化というのが2008年3月に告示されて、本年4月に全面実施されたようでございます。原則、英語を扱うということでございます。目標としては、外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、外国語に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うということでありまして、英語を通じてコミュニケーションの楽しさや大切さ、文化の違いを学ぶという指導内容のようでございます。

当日は、裏面にごございます4つの課題といたしますか、各学年、2年、4年、5年、6年で、この学校はもう昔からのそういう歴史がありますので、英語の教材というのを豊富に準備されておられました。

授業内容としては、細かいことは時間の関係で省略させていただきますけれども、いろいろな材料を使いましての子どもとのコミュニケーションということで、実際にそれを見学させていただきました。本年度からこういった英語教育が開始の年ということで、当日

は多数の教育現場の先生方が参加されていたというのが特徴でございます。

あと、実際に拝見しまして、問題点というか、個人的に考えたことがございます。ここはもう歴史のあるところでもって英語教育に力を入れてやってきておるのですが、相模原市内の各学校での実施状況はどうなのかということが1つ、見学というか、発表会に参加させていただいた後に感じた次第で、ぜひ相模原市内の状況がわかりましたらお教えいただきたいと思っております。

それから、当日は、ALTといって、ネイティブイングリッシュをお話しされる補助の方がいらしておりました。このALTがどのくらい各学校に配置されているのか、この辺もちょっと聞いてみたいなというところがございます。この学校に配置されているALTの先生の質はかなり熱心で、子どもたちを楽しんで導いているということがよくうかがえたと思います。ですから、全国的にこういった授業を実施するに当たっては、このALTの能力のいかんによって授業の質が決定されてくるのではないかと。一生懸命にハイテンションでやっていると、子どもたちも乗り乗りになるというようなことだと思います。ALTの配置というのは各学校で絶対に必要です。予算面の考慮が必要だとは思いますが、ネイティブイングリッシュをお話しになる方を配置するということはどうしても必要だろうと思っております。

もう1つ、今年度から実施される学年は5・6年生ということでありまして。5・6年生というと、もちろん、図にもかいてございますけれども、ある程度、楽しんで英語を学ぶという観点からすると、1年生で入ったときにはこういった授業というのはなかなか無理でしょうけれども、低学年で実施することによって、この日、拝見したところだと、低学年の方というのはやっぱりかなり楽しんで教室で学んでいらっしゃるという印象を受けました。ですから、5・6年生というよりは、むしろ、こういったトライアル、あるいは入っていくには、やっぱり低学年の方がより楽しんでそういった授業を受ける雰囲気になるのではないかなという印象がございました。この学校でやっている、あるいは文部科学省のねらいといいますか、これは後に参考資料として添付いたしました。

一番最後に、2ページの歌がございます。これは当日、発表会でもやっていたけれども、こういう歌を通じて英語を皆さんで歌うということで、これはなかなかおもしろい試みなのかなというふう感じた次第でございます。

たまたま今年の11月25日号の週刊朝日に、小学校の英語教育ということで、非常に興味ある記事が掲載されており、非常におもしろい内容でございました。

◎溝口委員長 どうもご苦労さまでした。

その中で質問が何点か出ていたようですが、先に進めておいて、担当者の方がおいでになったところで、お答えいただきたいと思います。

それでは、この件について、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

◎溝口委員長 それでは、次に、小林委員の方から、共和小学校と富士見小学校の研究発表会について、ご報告をお願いしたいと思います。

◎小林委員 11月14日、22日と、共和小学校、富士見小学校の研究会に参加してまいりました。順次、報告したいと思います。

まず、共和小学校でございますけれども、この学校の研究テーマは「伝え合う活動を通して 豊かな心を育む」、その後のサブテーマ、これが重要なのですが、「～聴いて 考えて つなげる活動を通して～」と、そういうふうに設定しております。特に共和小学校は、国語科を切り口として研究に取り組んで、ちょうど3年が経過したところでございます。

サブテーマである「聴いて 考えて つなげる」ことのできる子というのはどういうことかといいますと、話し合い活動の中で、まず最初に相手の話にしっかり耳を傾けて、内容を理解する。その次に、今度は相手と自分の意見をしっかり比べて、あるいは修正して自分の考えづくりをします。自分はこう考えるのだと、自分の考えをつくり出す。そして、その考えをきちんと理由をつけて発表し、話し合いをつなげていくと。こういうふうにして、言語活動を通して複眼的に自分自身をとらえ直していく力をつけたいと、こういう大きなねらいでございます。

この学校は授業の構想が非常にすごいのです。かいつまんでご説明申し上げます。

まず、授業に入りますと、1人学びの時間が5分から10分とってあるのです。1つの課題に対して、自分の考えを持つ時間をきちんと確保してあげているのです。そして、5分から10分、個人学びをします。自分の考えをまとめたり、あるいは文字にあらわしたりして、活動いたします。そのときに、自分はこういう考えをしているのだという根拠まできちんと書かせるように指導しています。

もう1つ、すごいのは、考えている過程が残せるように、書いたものを消しゴムで消してはいけなと。消しゴムで消さないで、そのまま残しておきなさいと。あるいは見え消しぐらいにしておきなさいと。そういう指導をしています。

その5分から10分間の先生の机間指導というのですかここがすごいです。先生方が座席表を持っていて、どういう考えをしているか、一人ひとりのポイントをメモするのは。また、子どもにかかわりながら、その子の考えを醸成というのですか、さらに膨らんでいくようにしていく。それから、特に支援の必要な子どもには十分にかかわっていると。もう先生方が子どもたちの間にずっと入り込んでいて、黒板から離れているのです。そして、この後に展開される全体学習に向けて、この考えはとていいよとか、あなたの出番はきっとあるから、そのときになったらこの意見を言いなさいよと、ちゃんと背中押しをしているのです。そういう先生方の指導が細かくここで入るのです。

その後、5分から10分たった後、今度は全体学習へと入ってくるわけです。今度は、その課題に対して、だれかが発表します。それに対しての聞く姿勢も、まず聞くということなのですが、聞き方をきちんと指導されているのです。態度では、きちんとうなずいて聞くとか首を振るとか、そういう聞き方がある。それから、言葉での反応の仕方も若干指導されているのです。「うん、そうかな」とか、あるいは「うん、そう思うよ」とか、「なるほど」とか、あるいは「確かに」とか、そういう反応する言葉もきちんと教えられてありました。ですから、話す方も非常に話しがいがあるわけです。反応してくれると。

それが終わりますと、今度は全体で、あるいはグループで考える時間があるのです。これがまたすごいです。この考える時間というのは、自分の考えを友達と比較して修正したりして、確かな自分の考えにしていくという時間なのですが、確かめたり、自分の考えをつくる時間をここで行います。このときにも先生の指導が入ります。子どもの発言を促したり、子どものちょっとしたつぶやきを拾うなどしてグループに入っていくわけですが、ここでは自分が、先生が話すことは、介入することはできるだけ控えながら、我慢しながら子どもたちを後ろから押していくと。

その後、今度は発表があるわけですが、つなげる段階です。ちゃんと自分の考えを理由を通して説明すると。この説明の仕方も、非常に短く区切って、確認していく説明の仕方なのです。何々だから、こうでしょう。いいですか、ここまでは。だから、ここまではわかってもらったろうかと。だから、私はこう考えるのですという。この説明の仕方まできちんとトレーニングされているのです。

それで、3年たっているわけですが、4年、5年、6年生の姿の変化が非常によく見てとれるのです。例えば6年生では、だれか仲間が質問すると、わかっている生徒が5、6人ぱっと立つのです。立つとお互いに目くばせしながら、ぱっとしゃがんでしまうのです。

大概1人だけ残るのです。ですから、相手の出番だとか自分の出番をちゃんと授業内で想定できるように指導されているのです。6年生は、さすが3年間やっただけあって、自分の出番も考え、相手の立場も考えて論議に入れると。そういう授業展開が行われています。

そして、最後になりまして、振り返りという授業なのです。授業を通して、今ある自分はどう変わったのか。自分の変化を自覚する時間です。それを書く時間があるわけです。

こんなふうにして、共和小学校の研究というのは、新しい学習指導要領で求められている思考力だとか判断力、表現力をはぐくむ指導の1つの手法として、聞いて、考えて、つなげるという言語活動を展開なさっていると。新しい指導要領にも載っているし、言語活動を充実する点では非常に目をみはるものがありました。

感想ですけれども、学習活動をずっと見ていまして、子どもたちが非常にゆったりとしていて、そして安心して学習に取り組んでいて、いい表情をしているのです。それで、私はふと思ったのです。これは学級経営も相当しっかりしているのだろうなど。と同時に、こういう学校でいじめだとか不登校はあり得ないなという感じがしました。

授業が終わった後、この学校に指導に入っておられる横浜国大の高木先生にそう話したら、これを本格的にやっていったらば、不登校ゼロの学校は出ますと。具体的には厚木市に1つあって、山北町にもあるという話もしました。ですから、この学校はまだまだ伸びしろがあるし、いい力を持っているので、非常に期待していきたいと、そんな話をしておりました。

それから、先ほど言ったように、この教室には教卓がないのです。そして、はい、はいと手を挙げて、はい、だれだれさんという授業はなしなのです。それをやると、わかっている子だけで授業が進んでしまうから、それはやらないと。そういうことです。それから、先生もかまぼこみたいに黒板の方に立っていないのです。板にくっついていないのです。いつも子どもたちの間に入り込んでいて、一人ひとりをサポートしているという姿がありました。

それと同時に、先ほども説明しましたがけれども、3年間のトレーニングで学習のスキルを磨いた子どもたちの姿が非常に印象的でした。この「さがみはら教育 No.151」に高木先生のことが出ておりますけれども、「言語活動の充実」、この調査の中に、やはり相模原市では言語活動の充実は非常に重要な課題であるということが出ておりますので、できれば、この学習風景のビデオとかDVDをほかの学校でも子どもたちと一緒に先生方が見るチャンスでもあれば、さらにいい勉強になるのかなど。相模原市全体として盛り上が

ってくるのではないかなという感じがいたしました。目からうろこが落ちる部分が非常に多くありました研究会でございました。これがまず共和小学校の方です。

それから、もう1校は富士見小学校です。この学校はちょうど開校10年になります。開校以来、テーマは「子どもの学びを創る」ということで、「学び合い高め合う授業の創造」という主題のもとに授業づくりを研究しております。そして、平成20年度からですか、支援教育推進校という市の委託を受けまして、支援教育の視点を取り入れた授業を展開しているわけですが、本年度は特に子どもがお互いのよさを認め合うということと主体的学習の2つを柱にして、支援教育の支援の手だてを明確にするための学年プランも作り出して、一人ひとりの個々の学びの充実に迫った研究をしています。

支援教育という言葉の考え方なのですが、障害の有無にかかわらず、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応していくことを学校教育の根幹にすえるのだということで、子ども一人ひとりの教育的ニーズにこたえるという支援教育の理念をしっかりと先生方がお互いに理解し合って、浸透し合って、具体的な教育活動を展開していきたいと、そういう動きでございます。

そして、この学校の今年が目玉というのですか、特に鮮明にしてきているのは、ユニバーサルアプローチとパーソナルアプローチという二段法を言っているのです。はじめは私もよくわからなかったのですが、よく聞いてみますと、ユニバーサルアプローチというのは、いわゆる学級経営だとか授業改善とあって、子どもたちも先生方もお互いに見える支援、よく見える内容。それから、パーソナルアプローチというのは、パーソナルは個人ですよね。ですから、個人個人への配慮、それから、個別の支援指導の準備をきちんとしていると、そういう意味で、見えにくい支援というふうに2つに分けているのですけれども、非常に有効に的確に意図的にスキルの磨きのさまが授業の中で見てとれました。

授業の導入の段階でも、子どもたちの関心や意欲を高める指導の工夫がされているし、授業の見通しを持たせる工夫というのですか、手順が視覚を通して明示されておりました。授業の展開が、また、子どもたちへの思いが伝わるように、一人ひとりが活動、あるいは実験、体験できる時間をきちんと一授業内に確保いたしまして、そして、学習形態の工夫も、板書、ホワイトボード、写真、ICT機器と、ですから、具体的なものをセットしながら工夫された授業、特に個に応じた指導と助言は非常にきめ細かくやっておりました。

終わりの段階になりますと、お互いのよさを認め合える、振り返るカードということで、自分はよく考えられたかなとか、考えを伝えられたかな、よく聞けたかな、あるいはその

人のよさを見習うことができたかなというふうに、子どもたちの振り返りの時間をとっております。非常に丁寧な指導で、子どもの考える時間と作業時間のヒントのタイミング等、個別対応がうまくいったなという感じがします。

その中で、特に校長先生がおっしゃっていたのは、授業に参加できていない子ども、黙って座っているだけの子ども、わかったと勘違いしている子どもに対する先生方の見逃さない確かな対応をぜひして欲しいのだと。そんな感じがいたしました。そういう点では、共和小学校とも重なる部分がございますけれども、この学校ほどの教室においても、自分が学んだことに確信を持って、子どもが安心して学びに参加できて、そしてまた先生方も誇りを持って自分自身を伸ばせる学級、あるいは学校、それにいわゆる学校らしい学校づくりというのですか、根本に立ち返っての研究が非常に印象的でした。

2校の研究発表に参加させていただきまして、子どもたちが学びを通して何かできたことの実感といたしますか、あるいは学びを通して自分が変わったことの実感、それから、最高の小学校6年間であったなという実感、そういうものを確信して味わわせてやりたいという先生方の意気込みというのですか、熱い思いというのですか、心根が強く伝わってきた2校の研究発表会でした。

◎溝口委員長 それでは、先に相模台小学校の大山委員からの質問について、お答え願いたいと思います。

○土肥学校教育課長 先ほどのご質問で、外国語活動と、それから中学校の外国語のねらいと、あとALTの位置付けというようなご質問があったということで、説明させていただきます。

今年度より導入されました小学校の外国語活動は、週1時間程度の授業になりますけれども、これは外国語を通じて、外国語といたしましても主に英語でございますけれども、言葉や文化について体験的な理解を深めるといって、そして、子どもたちが積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成、こういったものの育成を図って、外国語の音声、あるいは基本的な表現に慣れ親しみながら、いわゆるコミュニケーション能力の素地を養うということを中心に行われている授業でございます。

簡単に申し上げますと、英語が話せるようになるかわかるようになるということが主ではないかという誤解をどうしても受けがちなのですが、こういう外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうという、そういう態度を育成することが一番主眼で行われている授業、これが小学校の外国語活動の授業でございます、週に1時間を設定

して、今年度から本格的にスタートしたものでございます。

続きまして、中学校の方は、当然、同じように外国語を通じてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を行いますけれども、同時に英語教育としての聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、まさにコミュニケーション能力の基礎、こういったものをしっかりと養っていくことがねらいで行われているものでございまして、来年度の完全実施に合わせて、中学校では各学年で4時間実施される予定で行われているものでございます。

続きまして、本市におけますALTの活用の部分でございますけれども、本市では合計39名のALTを配置してございます。39名の中で、教育委員会で直接雇用しているALTが15名、それから委託という形で業者をお願いしているALTが24名でございます。

中学校は、ほぼ1校に1名、通年配置をしております、年間で各学級に35時間程度は配置できるような形でALTの方を派遣しております。今、すべてがそうならない、一部例外的なところはございますけれども、できるだけ、各中学校に配置するALTは同じALTが配置できるような形で、中学校のALTがその学区の小学校に派遣して、小学校の方では、5・6年生につきまして、各学級に20時間程度入れるような形でALTを配置してございます。

あと、可能な限り、余剰の部分で、1年生から4年生も、いわゆる国際理解教育的な形の中で、ALTとのコミュニケーションを図っているような授業がありますので、学校における数時間程度、ALTとのコミュニケーションの授業ができるような、そういう余剰の時間も含めて、小学校に配置しているところでございます。

ただ、ご覧いただきました研究校、相模台小学校につきましては、先進的にやっていたという趣旨もございますので、年間約20週から30週、2校ございますけれども、研究のために他校よりは多く配置していると、こういった現状があります。

◎大山委員 先ほどお聞きしたのは、市内全体としての実施状況ということで、相模台小学校はかなり先進的というか、歴史が古いので、いい英語教育という意味ではモデル校になっていると思うのですが、相模原市全体から見ると、どの程度までいっているのかなというところなのです。

先ほど、ちょっとご指摘したのですが、やっぱりALTの持っていき方によって英語を楽しむところがかなりキーポイントだと思うのです。ですから、ALTがどんな方なのかといったことも採用に当たっては少し考慮に入れたいといけないのではないかなと

思います。まだまだ始まったばかりですから、やっぱり市町村差、それから市内での格差があると思うのですけれども、その辺は将来の検討課題として、どのように立ち向かうかといったことをお聞きしたかったのです。

○土肥学校教育課長 今回の委員のご指摘のように、当然、ALTの方々はそのような指導力を持って、同時に子どもたちと積極的にコミュニケーションを図り、授業づくりに参画していただくという趣旨で、どなたでもいいというわけではございません。直接雇用については、そういった資質も考慮して、私どもは採用し、派遣しております。

また、委託につきましても、当然、事前に委託業者と十分な打ち合わせをする中で、基本は市の方でこういった授業展開をというような資料等々を示す中で、やっぱり学校の主たる担任、英語担当の教諭が主になって授業を展開し、それをサポートいただくという趣旨でALTに入らせていただいていますので、ALTに授業を丸投げするということでは当然ございません。そういった中で、ALTの持っている資質を授業の中でより効果的に生かすような形で協力いただいているというのが現在の考え方でございます。

相模台小学校、ああいう研究校は、かなり以前から多くの時間数を派遣しまして研究を進めていただいていますけれども、同時に他校についても、今年度の完全実施がスタートではなくて、以前から可能な限りでの時間数を配置し、先行的に外国語活動を小学校の方で取り組んでいただいております。確かに研究校の先進的な事例というのはさらに進んでおりますけれども、各学校でも各担任が主体になって授業を進めておりますので、そうした部分では、先ほど申しました小学校につきましては5・6年生に各学年20時間程度というのは、以前からも、20時間にしたのは最近でございますけれども、10数時間派遣する中で同じような授業を展開してきましたので、これまでの積み上げが各学校にはあるという、そういう認識を持っております。

ただ、ALTのそういった資質については、今後も各学校からの意見を十分吸い上げながら、その辺は留意していかなければいけないところだという認識は持っております。

◎大山委員 あと、もう1つ、文部科学省は5・6年生をこの英語・国際教育というものの学年として定めていますけれども、英語を楽しんで学ぶという観点からすれば、むしろ、導入としては小学校の低学年がよろしいのではないかというふうに思います。これはあくまでも個人的なことですけれども。文部科学省の方針として、新学習指導要領の中でそういった方針ですから、これはどうこうではないのですが、導入としては、先ほど言ったように、英語を楽しんで学ぶという観点からすれば、やはり低学年の方が導入しやすいので

はないかと。というのは、英語という語学に対して抵抗なく入っていけるという観点からなのですが、その辺に関してはいかがでしょうか。

○土肥学校教育課長 外国語活動という、そういう授業で位置付けられていますのは5年生、6年生だけでございますけれども、3年生、4年生については総合的な学習の時間という位置付けの中で、1・2年生も余剰といいまして、いわゆる時間的には余裕のある、ほかの教科を充てていない時間数というのが小学校にはございます。そうした時間の中で、これまでも各学校にALTを派遣する中で、小学校の低学年、中学年の子どもたちもALTと一緒に国際理解教育という位置付け、外国語を学ぶというのではなくて、国際理解教育という位置付けの中で、英語に触れたり、それからALTの出身の国々について学んだりとか、ゲームを通して、そうした国際教育という部分で楽しみながら学んでいくというような授業をこれまでも展開してまいりました。各学校では、今、新学習指導要領に移行して、時間を生み出すのが非常に厳しい状況ではありますけれども、各学校で工夫して、可能な範囲で、先ほど申しました、本市の教育委員会の方から派遣しましたALTを他の学年でも利用いただいて、新学習指導要領に移行した今年度からもそういった授業を実施しているという状況がございます。委員がご指摘のように、低学年からそういったものに触れていくことの重要性というのは私どもも認識しているところでございます。

◎斎藤委員 関連して、よろしいですか。今、大山委員からご指摘があったように、やはりALTの質が問題ですし、学校間の格差というものもまだまだ始まったばかりだと思っておりますが、それに向けて、必修化した後、これから教材開発ですとか教授法の共有ですとか、そういうことを進めていかななくてはいけないかと思うのですが、その体制というか、どんな計画で、だれが中心になって、どう進めておられるか、ちょっと教えていただけますか。

○西山学校教育課担当課長 委員のご質問にありました、今後の授業改善でありますとか教員の研修等につきましては、まず授業改善につきまして、このたび、研究発表を行いました相模台小学校につきましては、授業改善研究推進校という位置付けを今年度からさせていただきます。この授業改善研究推進校は今年度からスタートした新しい研究委託の枠組みなのですが、大きな研究発表を何年かに1回だけ発表するのではなくて、日常的な校内研究であるとか研究授業を公開していただくという、趣旨の大きなところがございます。相模台小学校の研究を、また、同時に上鶴間小学校も同様の研究指定をさせていただきます。特に外国語活動がスタートしたばかりでやはり学校間の格差が生まれにくいようにするためには、先進的な学校の授業自体を多くの先生に見ていただくということ

で、日常的な授業公開をしていただいております。

これにつきましては、相模台小学校、上鶴間小学校は、今のところ、今年度、既に5、6回の授業実施をいただいております、かなり複数の先生方が参加していただいております。また、この授業については中学校の先生もご覧いただいております、小学校での外国語活動を中学校の先生も見ることによって、そのつなぎの部分も授業改善の方に生かしていただいているということがあります。これは教育委員会の方としての施策の大きなポイントの1つです。

また、教員の研修につきましては、これらを含めまして、外国語活動の研修、ALTの活用を図る研修を総合学習センターでは毎年実施しております、ALTも講師に入った形での外国語活動の授業改善の研修をしていただいているところでございます。

内容につきましては、各学校の実情を把握した上で、子どもたちがより英語に慣れ親しむような授業が展開できるような形で、今後も中身の充実を図っていきたいなと思っております。

◎齋藤委員 ALTという存在は、大学でいうと非常勤講師のようなイメージでありますので、やはりきちんとした教科として位置付けるときに、非常勤講師を主体として教材開発をしていくというのはやっぱり限界があると。そうはいても、担当している日本の先生方が考えるのでは、ネイティブを上手に引き出すこともできないという、何かそのところが今後難しいかなと。本来であれば、ALTの先生も専任として、日本の学校教育の中で、ネイティブイングリッシュはどういう教授法があるかというところまで定着させればいいかなと思うのですけれども、こういうテンポラリーな雇い入れだけでの教材開発というのはなかなか難しいかなというところもありますので、ぜひ何か工夫して、本当の意味で定着するような工夫がこれから必要なのではないかなというふうに感じております。

○土肥学校教育課長 まさにそのとおりだというふうに私どもも認識しております、この期間は完全実施を想定して、教育委員会といたしましても、研究校でやられています授業づくりの例えば指導案でありますとか教材でありますとか、そういったものを学校に提供したり、あるいはどういうふうに授業をやっていくかという計画を教育委員会の方で作成したものを学校に提供したり、当然、内容については、学校がそれをもとに具体的な細かな計画指導案を作成して、授業を実施するものでございます。そのベースになるものの資料については、これまでも提供してきましたし、また、提供したから終わりということではなくて、これからもそういった取組は続けてまいりたいと、学校の支援を続けてまいり

たいと、こんなふうに思っております。

◎齋藤委員 例えば中学校は教科担任になっているわけですから、英会話専任のネイティブの人を置くみたいな方向はないのですか。そうすれば、その方が中心となって、小中学校の連携ということで見えていくこともできるわけですね。

○土肥学校教育課長 確かに、そういう形がとればいいなという思いがありますけれども、今後、これからどのように学校に定着していくかということを見きわめながら、これから学校への支援のあり方を考えていく、1つの方向の選択肢かなと思っています。今のところは、そういった形はまだ考えておりませんが、今後、その辺を検討していきたいと思っております。

◎齋藤委員 中学校では英会話を支援するという形でALTを置いているわけではなくて、中学校の英語のALTの位置付けというのは、小学校は国際コミュニケーションなのですが、中学校の英語の中に、英会話というくくりがありますが、そういう位置付けではないのですか。どちらかというと、総合学習により近い、外国語との活動という位置付けなのですか。

◎岡本教育長 中学校の授業をもう少し詳しくお話してあげてください。

○土肥学校教育課長 中学校の英語の中でのALTの役割も、基本的には小学校と全く同じで、英語の授業の中にALTもTTという形で入りまして、コミュニケーションですから、実際にALTと英語担当教諭がやりとりしながら、そのやりとりを子どもたちも一緒にやるとか、そういった形で、まさに授業そのものに入っているのが今の中学校でのALTの活用でございます。

◎岡本教育長 でも、ALTは一日中、職員室に入っていますから、子どもたちはもう生活の中でALTの先生とは接する、一緒に遊んでいる。子どもと一緒に遊ぶALTももちろんいます。ですから、授業支援のほかに、中学校はもう生活の中に、ALTが学校に一日中いる時間が週にあると。

◎大山委員 中学校の場合は常勤なのですか。

○土肥学校教育課長 いわゆる通年で配置しておりますので、その期間は一日おります。先ほど申しましたとおり、ある一時期、そのALTが小学校に行くという、そういう時間はとりますけれども、基本的には中学校におりますので、場合によっては、今、教育長がおっしゃられたように、部活動などにも参加されるALTもいらっしゃるというふうに伺って、教育をしていただいているALTもいらっしゃるというふうに伺っています。

◎溝口委員長 それでは、相模台小学校の研究発表会については、それでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

◎溝口委員長 それでは、小林委員の方から出た、共和小学校と富士見小学校については何かございますでしょうか。

私も共和小学校の授業の発表会に参加いたしました。先ほど、小林委員の方から説明があったとおりですけれども、今後、この共和小学校のような授業をほかの学校でも、さがみはら教育としてはやっていく方針なののでしょうか。この「さがみはら教育 No.151」には高木先生のお話と、それから古川校長先生のお話、それから教育長の巻頭言が出てまいりますけれども、こういう冊子を出して、共和小学校のような教育を相模原市の小中学校に広めるということでしょうか。

というのは、高木先生もおっしゃっていましたが、文部科学省の調査官が、今後、こういう授業を展開して行ってほしいというふうなことをおっしゃっているというふうに高木先生は盛んにおっしゃっていました。その辺をちょっとお聞きしたいのですが。

○西山学校教育課担当課長 まず、共和小学校の今回の研究指定につきましては、新教育課程研究校という形で3年間、要するに、新教育課程に変わるときの移行期間も含めた新しい取組をしていただいている研究校でございました。その中で、言語活動の充実を図るということで、特に国語科の授業を中心に研究を進めていただき、今回のような成果を発表いただいているところでございます。

ご存じのとおり、この間の共和小学校の発表では200名近い参加者がありまして、市内だけではなく、市外、県外からの参加者もありました。それほど、こういう研究の中身についての関心の高さをはかり知ることができた次第でございます。

また、私どもも今年度は計画訪問で38校ほど回っておりますけれども、その中で、中学校においても小学校においても、今、先生方が一番力を入れているところが言語活動の充実を通しての思考力、判断力、表現の力の育成というところでございます。

共和小学校の今回のこの実践の中身については、大変評価しているところでございまして、ぜひ共和小学校については、研究指定どうのこうのではなくて、研究についてこのまま発展していただきたいということを強く願う次第でございます。また、その中身について、多くの学校にこれを波及していく手だてを、今後、とらなければいけないと強く感じているところでございます。

◎溝口委員長 中学校でも、こういうふうな共和小学校でやっているような授業展開をする

予定なのでしょうか。

○西山学校教育課担当課長 中学校におきましても、これまで、極端に言いますと、どちらかというとならば先生が知識を教えていて、子どもからそれを引き出すという展開がされる授業も拝見されるときがありますが、中学校におきましても、やはり新学習指導要領の全面実施に当たりまして、子ども同士が話し合いをして、自ら課題を持って、自らその解決策を持つ、また、新しい見方、考え方を獲得するという授業展開を今していただいているところがございます。そういう授業を拝見しながら、その授業後の協議会、分科会の中で、小学校での取組を紹介しながら、また、ほかの中学校での教科の特性を生かした授業を紹介しながら、どういうふうに授業改善していったらいいかということで進めていただいているところがございます。

発表はございませんでしたが、研究校といたしましては、相模丘中学校が本年度より特色ある学校教育研究をしております、この中では同様な授業の取組をしていただいております。この間の共和小学校には、そちらの学校の先生方も来られておまして、それを参考にしようというところがございます。

また、あわせて相原中学校につきましては、リーディングスクール21の研究を今年度からスタートしていただいております、コミュニケーションを図る授業ということの研究のもと、やはり各教科における言語活動の充実を図る思考力、判断力、表現力の育成を目指した研究を今していただいているところで、まさしく委員長がおっしゃられるような形で、授業の展開を今図っていただいているところがございます。

◎溝口委員長 ほかに皆さんの方から何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

◎溝口委員長 それでは、私の方から、相模台中学校と湘南小学校について、ご説明したいと思います。

まず、相模台中学校ですが、11月10日に行ってまいりました。これも同じように、平成21、22、23年度の市教育委員会の委託で、特色ある学校教育研究校の指定を受けての発表でございました。教育長、学校教育部長、学校教育課長、若あゆの所長と、教育委員は私と小林先生で行ってまいりました。

研究のテーマですが、「生徒一人ひとりの確かな学力を育む授業づくり」ということで、サブテーマが「～わかるから楽しい授業を目指して～」ということでした。非常に楽しみにして行ったのですが、まず校長先生の方から、目指す生徒像はこういうものであると説

明を受けました。

その中で、私が一番注目したのは、こういうテーマがあるのです。「気力と気品に満ちた台中生」というのです。「気品」という言葉が入っているのです。こういう言葉が入っている目指す生徒像というのは、非常に珍しいのではないかと思います。

そのサブテーマとして、こういう言葉も入っていました。「あたたかい心で人に接し、協力と奉仕のできる生徒」、この「奉仕」という言葉も、ほかの学校ではあまりない言葉ではないかと思います。

そして、心の育みとして、不登校対策、それから子どもの居場所づくりに努力していると。この辺は先ほどの高木先生のお話で、この授業をすれば、不登校は次第になくなっていくというようなお話がございましたけれども、相模台中学校でも不登校対策は全体的に取り上げているということでした。

校長先生の案内で、1年、2年、3年の授業を見ましたが、1年生の授業は社会科の授業でした。まず、この学校の生徒さんはよく勉強しています。先生が質問すると、もう半数以上の生徒が手を挙げるのです。それを聞きながら先生が授業をしているのですが、もう先生が説明すると同時にぱっと手が挙がって答える。中学校1年生としては、全体的に家庭でよく勉強している生徒が多い。そういう感じを受けました。全員が参加している授業であるという感じを受けました。

2年生は理科の授業で、化学変化と原子と分子というようなことでした。これはグループ活動が必ず授業の間に入るのですが、非常に楽しく授業を進めていたようです。やはり考えを深めているということで、電子黒板を使った授業の展開でございました。

3年生は数学の授業でございましたが、先生が机間巡視などをしながら、わからない子どもへの手だてをされていたのが非常に印象的でした。友達とグループで話し合いをするのですが、わかりやすく自分の意見を述べていて、グループ活動が非常に活発だなどという感じを受けました。

それで、たまたま私たちが立っているところに女の子がかばんを持ってきていたもので、そのかばんをちょっとさげていいですかという許可をとってさげてみましたが、その重さに驚きました。こんなに重いのかと。それが1つではないのです。もう1つ、サブのバックがあって、その2つを毎日持ってきて、持って帰るということのようです。やはり教科書は充実しているとは思いますが、紙の質等がよくなって、非常に重いと実感いたしました。中学校1年生にはなかなか大変な持ち帰りではないかなと思いました。

それから、大空学級という、障害のある子どもの授業は脱穀でした。バケツの中で稲を育てて、そのモミを取るという授業をしていたようです。介助の人がおりまして、この方が非常に生徒の面倒をよく見ていました。介助員という制度というのでしょうか、これが相模原市ではよく機能しているという感じを受けました。

それで、研究の成果という発表が冊子に書いてあったのですが、満足度ということで、4つのランクに分かれておりまして、上の2つの満足度を足したものが、1年生が35%、2年生が58%、3年生が64%というふうに、学年が上がっていくに従って上昇しているのです。ですから、この相模台中学校では、子どもたちがかなり授業に満足しているということがうかがえるのではないかと思います。

それから、聞く力とか表現する力の定着度というのも、1年生が52%、2年生が62%、3年生は何と69%なのです。この学校ではこれからも、聞く力とか表現する力が学年進行に従って進んでいくということがうかがえるように思いました。テーマどおり、わかるから楽しいという授業が定着しているなど思いました。

最後に、校長先生から、教育方針等について説明がございましたが、ちょっとほかの学校と違うところは、上級宣言という言葉があるのです。上級生の宣言を書いたものを昇降口に張ってあるのです。こんな上級生に私はなりますということで、2年生の上級宣言の中に、「だれにでも優しく接する」というふうなことが書かれておりました。これなんかは校長先生の教育方針の1つであるように思いました。佐藤洋校長先生でございました。これが相模台中学校の発表になります。

もう1つは、市立湘南小学校です。これも平成21、22、23年度の市教育委員会の委託を受けて、特色ある学校教育研究校の指定を受けて、今年度は本発表ということで、11月18日に小林委員と行ってまいりました。

研究テーマは、「「湘南健児」の育成をめざして ～たくましい心と体を育てる健康教育～」という題でした。

全校で47名、世帯数は35世帯、学区住民が1,000人という、小規模校の学校ということです。

目指す児童像は、「心も体もたくましい子」。この中に、幾つか項目があるのですが、こういう項目は非常に特異ではないかと思いました。「思いやりのある心」。それから、もう1つ、行動体力、防衛体力、これがある子に育てる。行動体力はよくあるのですけれども、防衛体力というのは、ほかの学校にはない目指す児童像ではないかと思いました。

教頭先生の案内で授業を見ましたが、1・2年生は合同の授業です。1年生が4名、2年生が11名、15名でした。「よい姿勢について」の発表でしたが、養護の先生が実際に背骨の模型を自分の背中後ろに張りつけて、斜めに座ると背骨がどういうふうに曲がってしまうのかということ、養護の先生がそういう紙を背中に張りつけて、実際に授業で説明しておりました。非常によくわかりやすい説明だったように思いました。

それから、3・4年生も合同でした。3年生が5名、6年生が6名、11名でした。これは「楽しく食べるとおいしいね」という題でしたけれども、保護者が教室で子どもの隣に座っているのです。子どもと一緒に先生の授業を受けている。こういう姿を私は初めて見ました。子どもと相談しながら、アンケートなどについて、保護者の方が確認されました。結局、保護者も先生の授業を受けているという、そういう授業がなされておりました。

それから、5年生は8名です。「おいしい毎日の食事」ということで、ゲストティーチャーということで、栄養士さんが説明されておりました。これも私は初めて経験した次第です。栄養士さんが模型を持ってきて、一生懸命、わかりやすく説明しておりました。

そして、6年生が11名。これは「じょうぶな骨をつくろう」ということで、やはりゲストティーチャーとして栄養士さんが説明されておりました。骨格の模型が学校にあるということなののでしょうか、それを参考にして、骨粗しょう症の説明なども具体的にされておりました。

それから、もう1つ、杉の子学級という、障害のある子への授業があったのですが、これは1人の生徒に1人の先生がつく、マンツーマンの授業です。この子は足がちょっと悪かったのでしょうか、体育館でいすの上に乗らして、電車の乗りおりの学習ということで、先生と生徒が1対1で授業をしておりました。

全体的に、学校、教職員、保護者、養護教諭、栄養士、地域の方々など、一体となって湘南健児を育成しようという姿がよくあらわれているように思いました。

最後に、神保校長先生から、この地域では地域の方々の協力が非常に大きいと。県教育委員会より、これまで3回、優良PTAということで受賞されているということです。PTAの会員は、先ほども言いましたように、35世帯しかありませんので、OBの方々が準会員として活動してもらっていると。正規の会員はA会員、OBの会員はB会員ということで、何か会費も払っているようなお話でございました。

あと、校長先生も教頭先生も授業を持っているのです。校長先生は一コマだったでしょ

うか、教頭先生は4コマぐらい、授業を持っているというお話でございました。

以上が、私が行った相模台中学校と湘南小学校の発表の様子でございます。これについて、何かご質問等ございますでしょうか。

私の感想として、教育委員にこうやっていただけたのですけれども、やはりさがみはら教育というのがこれからどういうふうに進んでいくのか、また、現場の学校でどういうふうにご子どもたちを育てようとしているのかということを見ることが大切ではないかと思われました。したがって、これからはできるだけ現場の教育を見て、今後のさがみはら教育を考えていったらいいのではないかなというふうな感想を持ちました。

私の件につきまして、何かご質問ございますか。

◎**大山委員** 感想なのですが、湘南小学校というのは、多分相模川沿いにある児童の数が非常に少ない学校だと思うのです。私も学校保健という立場から、肥満健診といったものを通じて市の肥満対策委員会に出たときに、私の学校では過体重の子はいません、みんな伸び伸びと運動していますと。実際には、旧津久井地区でも過体重の子、肥満の健診の対象になる子というのは、やっぱりだんだん都会化されているせいか多くなっているのですが、この湘南小学校で今述べられたことというのは、むしろ、気持ち、体のゆとりといいますか、そういったものをこちらの旧相模原市の大きな規模の学校で生かすにはどうしたらいいかという工夫が何かございますでしょうかということをお伺いしたいです。

相模原市には都会の学校、それから過疎にある学校と2つがまざっていて、もちろん、現場の校長先生、それから教員の交流というのはだんだんにできていますから、旧相模原市内にいた方が旧津久井地域に行かれていますという事例もありますし、これはいい方向に行っていると思うのです。ですから、今の湘南小学校での感想といいますか、ご意見というのは、むしろ、旧相模原市内にある小中学校にそういうゆとりというのが欲しいのかなと。これは感想でございます。

◎**岡本教育長** 湘南小学校は、毎年、交通安全運動も地域と行っています。それから、あそこは河原野菊の保護活動も地域と行っています。今年は随分、台風被害があったようです。湘南小学校は地域とつながりが非常に強い、いい環境をつくっている学校です。たしか、今回は光が丘小学校と、この湘南小学校が子どもの体と学びをテーマにした研究発表をしたので、関心も高く、参観者が随分多かったようです。

ぜひトータル的に、子どもたちの学びと健康、あるいは体、食、そういう関連をして、また少し考察していきたいと思っておりますので、ぜひそのあたりをこれから課題にして、太っ

た子が出ないように、あまり家でお菓子を食べ過ぎたりしないように、できるだけ自然の中で、家庭と、そうやって授業に保護者が来てもらって、一緒に食を考えたり、姿勢を考えたり、そういうことは大事だなと思います。

◎溝口委員長 これについて、学校教育課から、何かございますか。

○土肥学校教育課長 まさに今おっしゃられたとおりだなと思っております。学び、いわゆる生きる力という部分の中で、健康、体力の部分も、やっぱり子どもたちの基礎になる部分です。当然、知的な部分、そういったところの学力を高めるということも重要な視点だけれども、一方で、そういった部分、それから豊かな人間性、やっぱり大きな3つの柱をこれから育てていかなければいけないということの中で、それぞれ特色ある研究をやっていただいているものを他校にもできるだけ波及していくということをこれから進めていきたいと、そんなふうに思っております。

◎溝口委員長 この研究発表会の報告については、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎溝口委員長 では、ここで、次回の会議予定を確認いたします。次回は、1月12日、木曜日、午後1時30分から当教育委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎溝口委員長 それでは、次回の会議は1月12日、木曜日、午後1時30分の開催予定といたします。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

これをもちまして、定例会を閉会いたします。

口閉 会

午後3時56分 閉会